

支援と受援が、共に大事なことを、思い知らされる思い

加藤 正幸 民生委員

能登半島沖地震を経験して災害の中での医療職を全うするという話を聞いて感動しました。

「ごちゃまる」の名の由来はある民生委員との話がきっかけと、ご主人の話がありましたが、私も民生委員をしている身として、能登の民生委員と医師のご苦勞を察しました。

地域での様々な課題を丸ごと抱えて地域の人々との生き方を模索する事は簡単でないと思います。

このような医師の方や民生委員、自治会、その他、裏方で動いている方を大切にする事が大事だと感じました。

災害は予測不可能であり能登の事例は日本中どこでも起きうる事だと思います。地方や過疎地では物資や人的資源が乏しいので、実際どのように支援と受援が共に大事なのか思い知らされる思いです。